

子どもが発熱した時に引き起こすことのある熱性けいれんですが、保育園内での発症も決して珍しくありません。熱性けいれんを引き起こした子どもに対して保育士が適切に対応する必要があります。今回は保育の現場でのけいれんへの対応について講義をしていただきました

小児のけいれんの特徴

- ◆ 乳幼児期にけいれんを起こしやすい
- ◆ 年齢によってけいれんの原因が異なる
- ◆ 幼児期は熱性けいれん(熱性発作)が多い
その中に時に隠れている髄膜炎、脳炎、脳症の鑑別が問題となる
- ◆ 先天性の疾患が隠れていることがある。ただし、頻度がまれなものが多い。

熱性けいれんとは

- ・乳幼児(5歳ぐらいまで)が、中枢神経感染症に起因しない高熱に伴って起こすけいれん(発作)
- ・発熱から24時間以内、左右対称、長引かない、同じ熱の期間に繰り返さない
- ・頻度:8~9%(欧米では2~5%)
- ・治療:基本的には無治療、再発率は3割程度

慌てず・落ち着いて!

◆ 単純型熱性けいれん

発熱後24時間以内に全身性けいれんが始まり、意識を失いますが、15分以内でおさまります。24時間以内に2回以上繰り返して発症することがありません。熱性けいれんの約9割が単純型であると言われています。

◆ 複雑型熱性けいれん

けいれんは15分以上続き、一度の発熱で何度も繰り返す、発熱後24時間後にも起こることがあります。てんかんに移行する例も報告されて、単純型とは治療が異なります。

熱性けいれんの症状

…主に以下のような症状が現れます

- ・ひきつけ
- ・目を見開いて焦点が合わない
- ・白目を剥く
- ・脱力
- ・全身を硬直させる
- ・泡を吹く
- ・呼びかけに応じない
- ・全身の色が悪くなる(チアノーゼ)
- ・嘔吐
- ・失禁

熱性けいれんが起きた時のポイント

…姿勢を楽にしてあげましょう

安全の確保

- ・周囲に危険な物があれば遠ざける
- ・無理に押さえつけない
- ・叩いたり、強く揺さぶらない
- ・口の中にものがある時(吐物、分泌物含む)は身体を横における

時間計測

- ・けいれんが始まった時間を確認
- ・どれくらいけいれんが続くか時間を計る

5分以上続く場合はすぐに救急車を呼びましょう!

観察

- ・必ず複数の保育士が対応し、様子を記録するようにしましょう
- ・スマホやタブレットのビデオ撮影も経過記録に有効です
- ・症状が治まった後もしばらく観察を続け、保護者への迅速な連絡をとる

絶対NG!

口に中に指や物をいれることは絶対にしてはいけません!



□発作を起こした時間帯・状況

起きていたのか、寝ていたのか、何をしていた時か、熱はあるか

□発作の様子

意識障害の有無、けいれんの有無

□けいれんの様子:左右差はあるか、どこからはじまったか

□目の様子:開眼していたか、眼球はどちらを向いていたか

□けいれん以外の症状は(口をモグモグしていた、嘔吐、よだれ、顔色不良、おびえていた、叫んでいたなど)

利用定員、開設時間等

- 利用定員 6人
- 対象児童 生後6か月から小学校6年生まで
- 利用時間 月曜~金曜日
午前8時00分~午後5時30分まで

お問い合わせ

岡山市北区鹿田町2-5-1 歯学部棟3階
ますかっと病児保育ルーム
TEL 086-235-7301



ホームページはこちら